

ゆい! のひろげ



宮古島市教育委員会
広報誌

第2号

2012/10/10日発行

個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島

特集

教育部 学校規模適正化対策班
学校規模適正化について

学校給食における食物アレルギーの対応について



Haleakalā National Park

CONTENTS

- ◆平良図書館こども大使を任命
- ◆夢実現助成事業報告
「憧れのメジャーリーグを視察」
- ◆ALT(外国語指導助手)紹介
- ◆わだいの広場

連載1 パニパニ☆スクール

平良第一小学校

全国から注目! 独自の工夫で楽しい「外国語活動」授業

連載2 文化財を巡る

- ◆豊見親墓三基
- ◆歴史・文化ロード「綾道」を歩こう!

特集

学校規模適正化対策班

学校規模適正化について



学校規模適正化の目的は？

学校規模適正化（統廃合）の目的は、「友だちがたくさん欲しい」といった子どもたちの希望を叶えること、毎日の授業やその他の教育活動を充実させるための教育環境・条件の整備がその目的です。

宮古島市は、過小規模校（複式学級のある学校）や小規模校（各学年1クラス）が多く、教育を強くするための力が分散しています。そこで、学校教育の適正化を図り教育を実施するための力を束ねる必要があります。

それでは何を束ねるのでしょうか(右図参照)。

- ①子どもの力を束ね学びの場を広げ質を高める。
(いろいろなスタイルの授業、部活動、児童会・生徒会活動、行事、リーダーの育成等)
- ②教師の力を束ね学校力を高める。
(部活動指導者の確保・免許外担当の解消・教師の切磋琢磨、校務分掌の適正分担等)
- ③施設を束ね予算を集中的に投入する。
(施設の効率的な維持管理、用務員・作業員の配置等)
- ④P T Aの力を束ね学校支援体制の強化を図る。

我が国の教育の理念は「生きる力」の育成です。「生きる力」とは、①確かな学力、②豊かな心、③たくましく生きるための健康・体力です。そのためには、日々行われている各教科や道徳、学級活動、児童会や生徒会活動、部活動などの時間をより充実させることが求められます。

宮古島市の児童生徒数は現在も減り続けています。学校規模適正化は待ったなしの喫緊の課題であると大人は認識しなくてはなりません。

宮古島市における児童生徒数の現状

宮古島市では1988年から2011年までに小学生3,246人、中学生1,028人の児童・生徒が減っており、13年間で約44%の減少となっています。児童・生徒合計9,679人から5,405人へと4,274人の減少です。

つまり、13年間で4,274人の減少なので、1年あたり329人の児童・生徒が減少しているということになります(図1)。

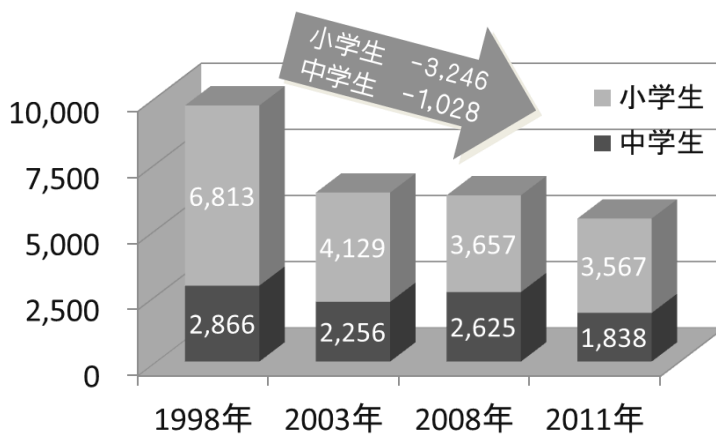


図1 宮古島市における児童・生徒数推移

学校規模適正化に関するこれまでの経緯

宮古島市教育委員会においては、合併後の平成18年から学校規模適正化に向けての検討を行って来ました。平成20年3月に策定された第一次宮古島市総合計画において、学校規模適正化の必要性について示されたことから、平成22年4月に学校規模適正化検討委員会を設置し、本格的な取組みをスタートさせました。

そして、検討委員会からの答申を受け、教育委員会で基本方針を決定し、平成23年8月30日から平成24年1月31日までの間、12地区において基本方針地区説明会を行いました。

対象地区

宮原・城辺・福嶺・来間・狩俣・西辺・池間・佐良浜
島尻・西城・伊良部・砂川



学校規模適正化に関するこれまでの経緯

アンケートの結果の傾向

平成22年度に小学校5年生・6年生、その保護者、小学校職員の各グループを対象に学校規模適正化に関するアンケートを実施しました。「望ましい学級数」（1学級、2～3学級、4学級以上）に関する設問では、すべてのグループにおいて「2～3学級が望ましい」との回答が大部分（62%～83%）を占める結果となりました。

また、中学校に関しても同様のアンケートを実施したところ、どのグループにおいても「2～3学級が望ましい」との回答が多く、41%～67%を占める結果となりました。また、「4学級以上が望ましい」との回答も21%～33%となっています。

アンケートでは、小学校・中学校とも複数学級がよいとの回答が70%以上を占める結果となりました。

アンケート結果は宮古島市教育委員会ホームページでも公開されています。

見直し素案

平成23年8月30日～平成24年1月31日までに基本方針の地区説明会を宮原・城辺・福嶺・来間・狩俣・西辺・池間・佐良浜・島尻・西城・伊良部・砂川の12カ所で行いました。

地区説明会での意見・要望、議会の意見を参酌し、教育委員会の基本方針に沿って適正化の時期・方法についての検討を進め、見直しの素案をとりまとめました。下図は、従来の教育委員会基本方針と見直しの素案を比較させた表になります。

	基本方針	素案
期間	平成23年度～30年度	平成23年度～
下地地区 来間地区	来間中を下地中に平成26年度までに統合する。	来間中を下地中に平成26年度までに統合する。
	来間小を下地小に平成26年度までに統合する。	来間小を下地小に統合することを検討する。
伊良部 佐良浜 地区	伊良部中と佐良浜中を平成26年度をめどに一校に統合する。	伊良部中と佐良浜中を平成31年度までに一校に統合する。
	伊良部小と佐良浜小を平成26年度をめどに一校に統合する。	児童数の推移や中学校の結果を見守り検討する。
城辺 4地区	福嶺中・城辺中・西城中・砂川中を平成28年度をめどに一校に統合する。	福嶺中・城辺中・西城中・砂川中を平成33年度までに一校に統合する。
	福嶺小・城辺小・西城小・砂川小を平成28年度をめどに一校に統合する。	児童数の推移や中学校の結果を見守り検討する。
北部地区	池間中・狩俣中・西辺中を平成30年度をめどに一校に統合する。	狩俣中を西辺中に統合することを検討する。 池間地区については幼小中連携した教育を推進する。
	池間小・狩俣小・西辺小・宮島小を平成30年度をめどに一校に統合する。	宮島小を狩俣小へ統合することを検討する。
宮原地区	鏡原小と宮原小を平成26年度までに統合する。	宮原小を鏡原小へ平成27年度までに統合する。

見直し素案についての基本的な考え方

- ① 教育委員会基本方針を踏まえつつ、地域説明会及び議会の意見を参酌し、学校規模適正化の時期について見直す。
- ② 複式学級の解消は喫緊の課題であるが、①の考え方を踏まえ中学校の適正配置を先行するが、一部小学校については早期の解消を図る。
- ③ ①と②に沿って新しい校区の編成を行う。
- ④ 学校施設整備計画は②及び③を勘案して見直しをする。
- ⑤ 建設時期の新しい学校、体育館等の学校施設についても他の利活用方法等を検討することもありうる。
- ⑥ 保護者を中心に説明会を開催し上記の考え方について理解を得るように努めていく(図2)。

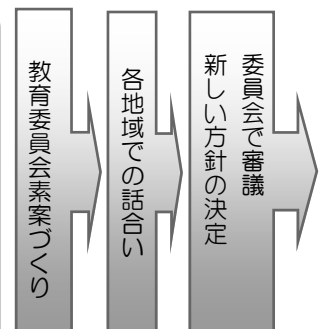


図2 今後の活動の流れ

学校給食における

食物アレルギーの



対応について

食物アレルギー対応実施要綱

食物アレルギー疾患を持つ児童生徒に対して、5カ所の調理場で統一した学校給食における食物アレルギーの対応を実施するため、「宮古島市学校給食における食物アレルギー対応実施要綱」を策定し、アレルギー対応の内容・申請方法を定めました。

食物アレルギーとは、特定の食物を摂取することによって、皮膚・呼吸器・消化器又は全身に生じるアレルギー反応のことをいい、アレルギーの起因になる食材のことをアレルゲンといいます。

対象児童生徒

- ・主治医により食事療法等の診断及び指示がある者
- ・家庭において食事療法等をおこなっている者

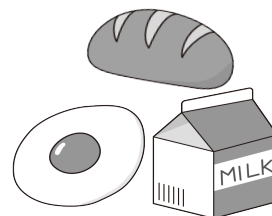
申請及び決定

- ・指定する申請書に医師の診断書を添えて学校へ提出してください。その後、教育委員会で審査し、決定通知書を学校及び保護者の方へ通知します。

食物アレルギーへの対応

集団給食を基本としながら、医師の診断及び教育長の決定のもと、次の対応を行います。

- ・除去食の提供（和え物類からアレルゲンを除去し、給食として提供する）
- ・弁当持参（給食の代わりに家庭より弁当を持参して頂く）
- ・牛乳停止（牛乳を停止する）
- ・詳細献立表の提供（アレルゲンが明記された献立表等を提供する）



現在までの状況

これまで学校の要請により城辺調理場・上野調理場・伊良部調理場において、アレルゲンを除いた「除去食」の提供で対応してきました。また、平良調理場では献立表にアレルゲンを記載した詳細献立表を保護者及び学校に配布してきました。

現在、食物アレルギー対応を行っている児童・生徒は(平成24年7月)は、平良調理場6人・城辺調理場3人・上野調理場2人・伊良部調理場2人、合計13人となっています。

今後の対応について

今回策定した実施要綱に基づき、器具や備品を整備し9月から除去食の提供等の対応を実施しています。アレルギー症状は何種類もあり、すべての症状に対応することはできませんが、給食用食材から、卵・イカ・カニ・エビの4品目を除いた「除去食」の提供等で対応することになります。



全国から注目!

独自の工夫で楽しい「外国語活動」授業

平成23年度より小学5年・6年生で必修化された「外国語活動」を全学年で行う取組みが、全国的に注目されている平良第一小学校をご紹介します。

ほとんどの小学校で2年間の移行期間を経て、本格的に始まった英語に慣れ親しむ外国語活動。

移行期間当初は、新しく始まった授業に子どもたちだけでなく指導する先生方も大変混乱したとのこと。そこで、シンプルで分かりやすく、参加しやすい授業にするため、試行錯誤の上、同校独自に考案したのが全国的に注目されている「スモールステップ」です。

低学年から英語に親しめるよう、「もやっとボックス」やカルタ等のゲームで、食べ物や動物、数など身近な言葉から外国語に興味を持つよう工夫をしたとのこと。そして、5年生になるとランチメニューを作成し注文したり、インタビューゲームをしながら基本的な外国語の表現に慣れ親しんでいくような仕組みとなっています。

そして、外国語活動ではコミュニケーション能力を養うことを目標にしており、6年2組担任の平良勇樹先生は、「外国語活動が始まり、積極的に前にでて発表する子ども、自信を持って話す子どもたちが増えた」と外国語活動を通して成長する子どもたちの様子を嬉しそうに話していました。

スモールステップを使った授業の様子

6年2組「みんなの20歳のカレンダー作り」

担任：平良勇樹先生



始めに本日の授業内容を説明する平良先生と外国語活動アドバイザーの小林映莉先生。



コミュニケーション活動に向け、「誰が決められた月の誕生日を調べるのか」話しあう子どもたち

インタビューゲーム



「When is your birthday?」とインタビューする保坂優作くん、「My birthday is～」と答える平良先生。



国仲克紀教頭先生にも積極的にインタビューする前泊真季さん

ALT (外国語指導助手) 紹介



ALTとは? ... Assistant Language Teacher (外国語指導助手)の略称です

委嘱状を手にする5人(左から)

New! リティア ナイラティカウ fromフィジー
(小学校7校) 東・久松・鏡原・狩俣・福嶺・伊良部・来間小中

New! ニロファ パテル fromフィジー
(中学校7校) 北・久松・西辺・狩俣・城辺・佐良浜・伊良部

ナイジェル ンガン fromニュージーランド
(小学校6校) 平一・北・池間小中・城辺・砂川・下地

テイビッドピーコック fromオーストラリア
(中学校7校) 平良・鏡原・西城・福嶺・砂川・下地・上野

ギャーリー スアン fromアメリカ(ハワイ)
(小学校7校) 南・西辺・宮原・宮島・西城・上野・佐良浜

平成24年度の宮古島市のALTは総勢5名で、中学校に2名、小学校に3名のALTが各学校で外国語活動や英語の授業支援を行っています。また、子ども達や地域の方々へ出身国の文化や魅力を紹介し、お互いの文化交流や国際理解を図るといった大切な役割もあります。

2学期より新しく赴任した2名を含む全員が子ども達の英語力向上のため、「宮古島の子ども達に楽しみながら英語を勉強してもらいたい。しっかり頑張りたい。」と張り切っています。

こども大使を任命

次世代を担う若い世代(中・高校生)の方による図書館利用が課題となっている市立図書館で、若い世代の利用率向上を目指し、市内の中学生・高校生から初めて「平良図書館こども大使」(中学生7名、高校生3名)を任命しました。

こども大使は夏休み期間に行った4回の活動の中で、中・高校生の目線、感覚で平良図書館の選書・配本・レイアウト等について話し合い、7項目を含んだ提言書を川満教育長へ手渡しました。また、こども大使の活動内容や平良図書館YAコーナーおすすめ本などをまとめ発行した「図書館大使新聞」も提出しました。

こども大使との意見交換の中で川満教育長は、「案内板設置や表示方法など、どうすれば市民に分かりやすいのか工夫してみたい」、「ヤングアダルト(YA)コーナーは、大使の皆さんの意見を反映し分かりやすい場所に配置したい」などと提言に対し回答しました。今後、こども大使の活動により多くの中高生が市立図書館に興味を持ち、利用する機会の増加が期待できそうです。

提言

- ・図書館の場所が分かりにくいので、案内板等を設置してほしい。
- ・平良図書館の入り口は暗くて入りにくいので、入り口を明るくしてほしい。
- ・中高生が入りやすいように、YA(中高生～)コーナーを見やすくしてほしい。
- ・トイレ等の施設を障害者が使いやすいようにバリアフリーにしてほしい。
- ・YA(中高生～)向けの本をもっと入れてほしい。
- ・図書館の人に話かけにくいので、カウンターに職員がいるようにしてほしい。
- ・学校図書館で、平良図書館の本を検索できるようにしてほしい



真剣に話し合いをする
こども大使のみなさん

中学生

- | | |
|-------|-----------------------|
| 北中1年 | 野中友貴子
下地紅杏
池間優花 |
| 西辺中1年 | 下地政智 |
| 西辺中2年 | 盛島大雅 |
| 久松中2年 | 下里莉奈
川満紗綾 |

高校生

- | | |
|-------|------------------------|
| 宮総実2年 | 野中美希子
与那覇千穂
下地双葉 |
|-------|------------------------|



提言書を手渡すこども大使

本市教育委員会では、今年度から本市児童生徒の人材育成及び教育指導者等の資質向上を図ることを目的として、「宮古島市教育の日」に表彰された者を対象に「夢実現助成事業」を実施しています。一人あたり30万円以内の助成金を交付し、自らプログラムした視察研修を実施してもらおうという制度です。

そして今回、夏休みを利用して狩俣魁士君(砂川中1年)が、憧れのメジャーリーグ視察に行ってきました。ここで、野球の生地アメリカの地を踏んだ狩俣君の感想文を一部ご紹介いたします。

…(前略)2日間の試合で打つ時のスイングの仕方
や内野の動き、走塁を視察し、勉強することが
できました。この良い体験をこれからの僕の野球に絶対
生かしていきたいと思います。そして、英語をもっと勉強して会話ができる
ようになって、また、アメリカやい
ろんな国に行きたいです。



2012.7.30
セーフコフィールド
マリナーズ対ロイヤルズ戦



憧れのメジャーリーグを視察

連載② 文化財を巡る



国指定重要文化財(建造物)

とうゆみやばかさんき

豊見親墓三基(平成五年四月二十日指定)

豊見親墓三基は、十五世紀末から十六世紀初めにかけて宮古の首長

文化財は、先人たちが築き上げた叡智^{えいち}を今に伝える大切な宝であり、私たちの誇りです。
現在、宮古島市内に所在する文化財で、文化財保護に関する法令等により指定を受けている物件は国指定が十八件、県指定が十五件、市指定は市町村合併後に県内最多となり一四件です。

国指定重要文化財(建造物)

豊見親墓三基

とうゆみやばかさんき

平成五年四月二十日指定

を務めた仲宗根豊見親をはじめとする忠導氏^{ちゆうどうし}一門が祀られている仲宗根豊見親の墓」と、仲宗根豊見親の

三男・知利真良豊見親を祖とする宮金氏の子孫で、平良の頭寛富が一七五〇年頃に造ったと伝えられる

知利真良豊見親の墓」^{けいしつ}、忠導氏の継室が祀られている「おとんま墓」の

三つの墓から構成されています。これらの墓の特徴は、墓の入口正面

に「つんぶん ひんぶん」があること、墓室の上部に、短い石柱が立ち並んでいることです。石柱の上端には凹状

の欠きこみ部があり、祭祀の時は、凹みの部分に桁木をのせ、梁をかけ、屋根を覆うことができます。このような

独特な構造の墓は県内他の地域ではみられず、貴重なものです。

また、「仲宗根豊見親の墓」は、仲宗根豊見親が父である真誉の子豊見親の霊を弔うために築造したと伝えられるもので、宮古在来のみやーか^{みやーか}と、沖繩本島風の横穴式の折衷様式で、沖繩本島と宮古のしげき文化の交流を裏づける代表的な墳墓であるとして、昭和三十一年二月二十二日に県指定史跡に指定されています。

歴史文化ロード

綾道^{あやんつ}を歩こう

平良地区に整備されている歴史文化ロード「綾道」は、かつてから宮古島の中心的な地である西里、下里、東仲宗根、西仲宗根、荷川取の平良五箇(ゼサラグカ)に展開されています。

指定文化財以外の未指定文化財も組み込まれたコースで、伝承民話に彩られた宮古の始まりから、戦乱の世、そして現在の宮古に至るまでの物語を楽しむことができます。

普段は車などで通りなれた何気ない風景も、先人たちの足跡をたどることで、新しい出会いにあふれているかもしれませぬ。

綾道の散策に便利な「綾道マップ」を各庁舎にて無料で配布しています。

詳しい内容については、宮古島市教育委員会生涯学習振興課文化財係

電話：774947(まで)お問い合わせ下さい。



詳しい内容については、宮古島市教育委員会生涯学習振興課文化財係
電話：774947(まで)お問い合わせ下さい。

定例会・臨時会の開催状況

8月27日(月)に第5回定例会、9月10日(月)に第3回臨時会を開催しました。

定例会での主な審議事項

- 宮古島市立学校職員に係る教職員評価システム苦情対応規程について
- 宮古島市学校給食における食物アレルギー対応実施要綱について
- 宮古島市文化財の指定・認定・選定等基準の一部を改正する告示について

- 「大立大殿みやーか」の市指定文化財への指定について
- 宮古島市教育行政推進連絡会議設置要綱の制定について
- 「教育条件・労働条件整備の改善についての要請」に対する回答について

臨時会での審議事項

- 学校規模適正化に関する事項について

宮古島市民総合文化祭 「高校生の主張大会」

9月20日(木)にマティダ市民劇場で、宮古島市総合文化祭「高校生の主張大会」が開催されました。各校代表9名の弁士の皆さんは、日頃の生活の中で感じた事などを堂々と発表し、審査委員の方々を大変悩ませたようです。審査の結果、「水を考えてみる」の演題で発表した粟國裕貴くん(宮古高校2年)が市長賞を受賞しました。教育長賞には平良麗さん(同1年)、優秀賞には上地奈央さん(伊良部高校2年)・山崎杏香さん(宮古高校2年)が選ばれました。表彰式は、11月25日に中央公民館で行われます。



堂々と発表した
9名の弁士のみなさん

平成24年度 宮古島市海外ホームステイ派遣事業



モアナルナ高校の生徒と
一緒に短冊づくり

この夏(8月4日～8月18日)約2週間、市内中高生18名がハワイ州オアフ島・マウイ島へ海外ホームステイに派遣されました。

滞在中は英会話やアメリカ文化、ハワイの移民社会について学んだほか、ハレアカラ登山や現地高校生との交流会等で充実したプログラムを過ごしました。引率の波平麻衣子先生は「生徒たちは、滞在の間に英語力の向上だけでなく、自分から積極的に他者と関わろうとするコミュニケーション能力が上がった」と生徒たちの様子に感動していました。

また、訪問先やホームステイ先で多くのアロハ・スピリット(他者尊重、相互理解、おもてなしの心)を受け、「たくさんの貴重な体験ができ、感謝の気持ちでいっぱい」と有意義な夏休みを過ごせたようです。

宮古島市総合博物館第22回企画展

宮古のマングローブ環境とそこに暮らす生き物たち

市総合博物館で7月11日(水)～9月2日(日)の間、第22回企画展「宮古のマングローブ環境とそこに暮らす生き物たち」が開催されました。展示では、「マングローブとは何か」・「マングローブ植物の特徴」・「マングローブ環境と生物」・「マングローブ環境と人との暮らし」の4つのテーマに分け、宮古のマングローブをメインに紹介しました。

夏休み期間中ということもあり、来館者数は1,795人と多くの観光客や児童生徒の姿が見られました。マングローブという熱帯・亜熱帯地域でしかみられない植物に興味をもってくださった方も多く、また、子どもたちにとっては夏休みの自由研究のよい題材になった様でした。多くのご来館ありがとうございました。



企画展示の様子



マングローブについて学んだ子ども博物館

10月の行事

- 高齢者リーダー研修会
日程/10月16日(火)
場所/中央公民館大ホール
- 第7回宮古島市民総合文化祭(児童・生徒の部)
書道・美術・文学・自由研究展
日程/10月20日(土)・21日(日)
場所/宮古島市中央公民館
- 女性団体リーダー及び
自治公民館長等研修会
日程/10月28日(日)
場所/下地農村環境改善センター
- おはなし会たまたまばこ
毎週土曜日(平良)、第一日曜日(城辺)

11月の行事

- 第8回宮古島市生涯学習フェスティバル
日程/11月17日(土)・18日(日) 午前10時～午後5時
場所/宮古島市中央公民館
テーマ「学び育てる ぶんかのまち みゃーく」
- 第7回宮古島市民総合文化祭(児童・生徒の部)
・郷土の民話大会 日程/11月4日(日)
場所/中央公民館大ホール
- ・音楽祭 日程/11月25日(日)
場所/マティダ市民劇場
- おはなし会たまたまばこ
平良:10日(土)17日(土)25日(日) 城辺:第2日曜日